

令和2年度第2回会議議事要旨  
(令和3年3月30日開催)

令和3年6月

南 城 市

1. 報告事項(令和2年度第1回議事要旨、今年度の取組の実施状況について、Nバス及びおでかけなんじいの利用状況)について

番号	委員	事務局
1-1	<p>通勤先の結果が南城市内の割合が高いが、国勢調査と整合がとれているか確認してほしい。また、買い物先の合計が100%を超えている理由を教えてください。(神谷委員)</p>	<p>国勢調査との整合は確認する。(P4に掲載) 買い物先は2か所まで回答してもらっているため、合計が100%を超えている。</p>
1-2	<p>外出頻度の減少を年代別でもみたほうが良い。若い世代はともかく、高齢者の外出が減っているというのは福祉の観点からも問題があるので確認してほしい。 アンケートで得られたNバスの利用頻度の調査結果が実際に利用状況とあっているか確認してほしい。 GTFSについては、沖縄県民の認知度が極めて低い印象がある。県民か県民以外かで分けて確認してほしい。 おでかけなんじいの観光客の利用者数と、斎場御嶽などの観光地の来場者数の変化を比較して、観光客利用の減少について分析してほしい。(神谷委員)</p>	<p>アンケート結果で得られた公共交通の利用状況を、地区別年代別人口で拡大して、実際の公共交通利用者数と比較すると、おでかけなんじいの利用者数は実際よりやや多くなっているが、路線バス、Nバスは概ね利用者数とあっている。(P4に掲載) 属性別の外出頻度の変化(P5に掲載)、県民・県外居住者のGTFSの認知度の違い(P5に掲載)、観光客数とおでかけなんじいの観光客の利用者数との関係(資料③、P9に掲載)について整理する。</p>
1-3	<p>公共交通の促進策として昨年6月1日から一日乗車券が導入されていると報告があったが、販売実績を教えてください。(慶田委員)</p>	<p>次回会議資料に1日乗車券の販売実績を記載する。(資料③、P3に掲載)</p>
1-4	<p>Nバスの利用者はどの月も平日の方が多いが、10月に限り土日利用者が非常に多い。これは無料乗車イベントと関連があるのか。(當眞委員代理)</p>	<p>ご指摘の通り。昨年10月は初めて土日利用が平日利用を上回った。</p>

## 2. 南城市地域公共交通網形成計画の中間評価について

番号	委員	事務局
2-1	今回の中間評価はどこかに報告しなければならないものではなく、自ら設定した目標に対して現状を自らチェックした自己評価という理解でいいのか。(神谷委員)	自己評価と認識している。 国に中間評価の報告が必要かについては、運輸部で確認する。(當眞委員代理)
2-2	高齢者向け定期券と学生向け定期券という表記があるが、定期券があるのであればその利用者数も記載すべき。(神谷委員)	誤解を招く表記で申し訳ないが、定期券は導入していない。定期券と同等の割引を回数券で実施している。
2-3	検討を目標にしている施策でも、実際は実施に至っている施策が多数ある。評価は○だけでなく◎なども使用し、目標を上回っている部分をもっとしっかり表現すべきだ。 路線バスの満足度は市民アンケート又は利用者アンケートのどちらを使用しているのか(神谷委員)	施策の実施状況の評価については、工夫する。 路線バスの満足度は市民アンケートの結果を用いている。なお、観光客の路線バスの分担率は観光客アンケートがもとになっている。
2-4	沖縄県内のバス・公共交通のアンケートの傾向として、低い評価をする人に限って長らくバスを利用していない傾向がある。全体からの高評価を目標にするのも良いが、実際の利用者の評価が重要であり、利用者と非利用者を分けて併記するなど工夫してほしい。(神谷委員)	ご指摘のように、利用者の評価をわかるように整理する。(P6に掲載)
2-5	バスターミナルの計画が暫定実施とあるが、今後現状から更に整備等の予定があるのか教えてほしい。 また、路線バスの市内運賃の上限運賃の導入は検討中となっているが、差し支えない範囲で検討状況について教えてほしい。(當眞委員代理)	バス会社3社の営業所機能を備えたバスターミナルの整備を、公共駐車場の西側の土地で予定している。 市内では運賃の上限を大人300円、市外に出たら対距離性の通常運賃にできないかと以前、バス会社と協議を行ったが、具体的には進んでいない。
2-6	バスターミナルの供用は令和8年度を目標としているのか?(慶田委員)	網形成計画では令和5年度に供用開始予定であるが、予定よりも遅れている。
2-7	遊覧バスの導入検討のところで「Nバスを活用した観光ツアーを実施した」とある。Nバスは路線免許で運行しているが、ツアーで使うのは可能なのか。(慶田委員)	誤解を招く表現で申し訳ないが、実際に遊覧バスを運行するのではなく、Nバスを活用した観光ルートを南城市観光ポータルサイトで提案している。

番号	委員	事務局
2-8	バスターミナルは単費で整備するのか。 (神谷委員)	計画策定当初から、複合施設を含めたバスターミナルを建設したいということで用地の確保に進んでいるが、単費での建設は厳しい。公共施設の統廃合や、官民連携による整備を検討している。
2-9	「どこでも気軽に移動できる身近な移動手段の確保」が2.6点/5.0という評価。Nバス導入や既存のバス網の大幅な改変等、将来にわたっていい施策だと思う。ただ、浸透度は高まっているが便利になったという実感はなかなか湧かないでいる。将来に向けた施策と生活実感との乖離をどう埋めていくか検討いただければと思う。 地震などの天災により非常事態が発生したときに、どう対処するのかが載っていないのでわからない。考えがあるのかないのか、あるのであれば教えてほしい。(新里委員)	点数についてはあくまでもアンケート結果を示しているものなので、もう少し定性的な観点も含めて、市民の皆さんからの意見を聞きながら今後も取り組んでいきたい。 地震等の災害時の対応については検討していない。ただし、バスはライフラインでもあるので、道路状況を見ながら、事業者と連携して、運行していく必要があると考えている。 災害などの対応についての補足。国は災害時に公共交通機関の許認可の緩和等により住民の足の確保に対応している。現在コロナに関しても災害時に近い対応をしている。(小谷委員)
2-10	路線バスのルートの満足度が2.5点と非常に下がっているが、ルートについて事業者との協議をする機会はあるのか。(喜屋武委員)	路線バスはルート、運行頻度、路線のわかりやすさの3つとも満足度が目標点数に達していない。Nバスは、運行開始からまだ1年半くらいで周知が足りない部分もある。Nバスと路線バスが連携して運行できるよう協議を行っていきたい。 令和3年度は、Nバスの乗降データをもとにバス停やルートの需要を分析し、ルートやダイヤの変更に役立てていきたい。
2-11	「路線バス」という言葉はNバスを指しているのか、Nバスと幹線バスをまとめて指しているのか。(波平委員)	両者をまとめて指している。
2-12	空港から直接観光客を南城市に運ぶ空港連絡バスの計画があると聞いているが、施策に含まれているのか。(大城委員)	施策1-2に含まれる。空港直行バスはぜひ運行したいが南城市で運行できるわけではない。民間のバス会社の協力を得ながら、南部東道路の全線供用にあわせ運行できればと考えてはいるが、具体的な検討はこれからである。

### 1-1. 通勤通学者数の市民アンケートと国勢調査との比較結果

市民アンケートで把握した市町村別の通勤通学者数は、H27 国勢調査の通勤通学者数と概ね合致している。

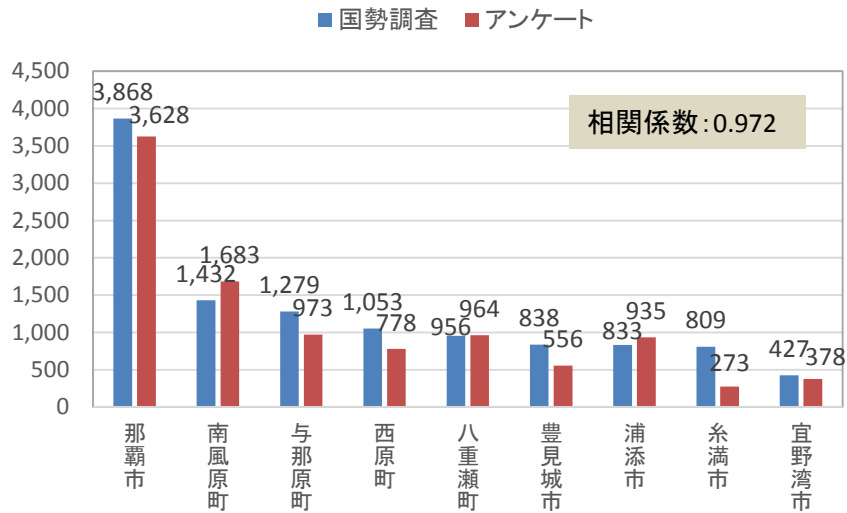
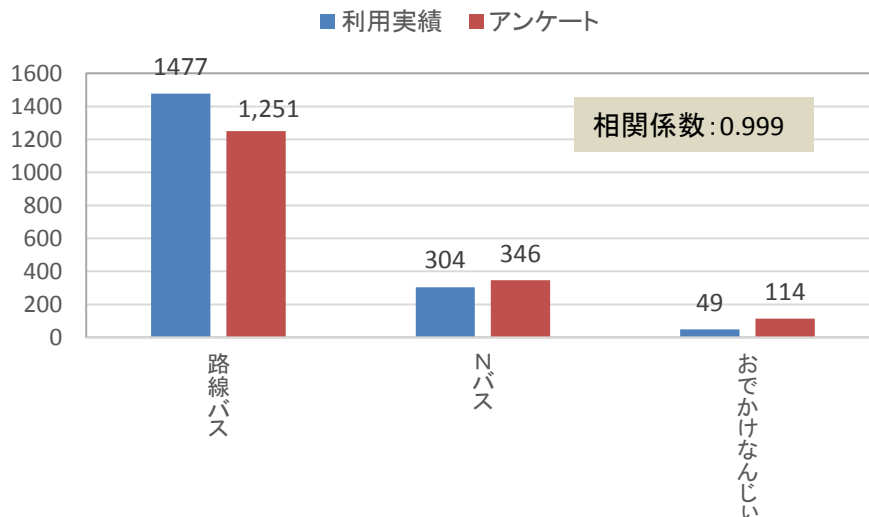


図-1. 通勤通学者数の市民アンケートと H27 国勢調査との比較結果

### 1-2. 公共交通利用者数の市民アンケートと利用実績との比較

市民アンケートで把握した公共交通の利用者数と、公共交通の利用実績は、概ね合致している。



利用実績  
 路線バス: H25 沖縄県調査  
 Nバス: R2.11 利用実績(運賃収入より算出)  
 おでかけなんじい: R2.11 利用実績

図-2. 公共交通利用者数の市民アンケートと利用実績との比較結果

## 1-2. 属性別の外出頻度の変化

コロナ禍における外出頻度の変化をみると、30代は「外出頻度が減った（半減）」が32%と最も少なく、一方、「外出頻度が以前と比べ増えた」が19%と50代とともに最も多く、他の年代に比べると、コロナ禍の影響が小さい。（ただし、30代の64%は外出頻度が2~3割以上減少）

また、50代、60代、70代以上は、わずかではあるが、年代が高くなるにつれ「外出頻度がとても減った（半減）」の割合が高くなっている。

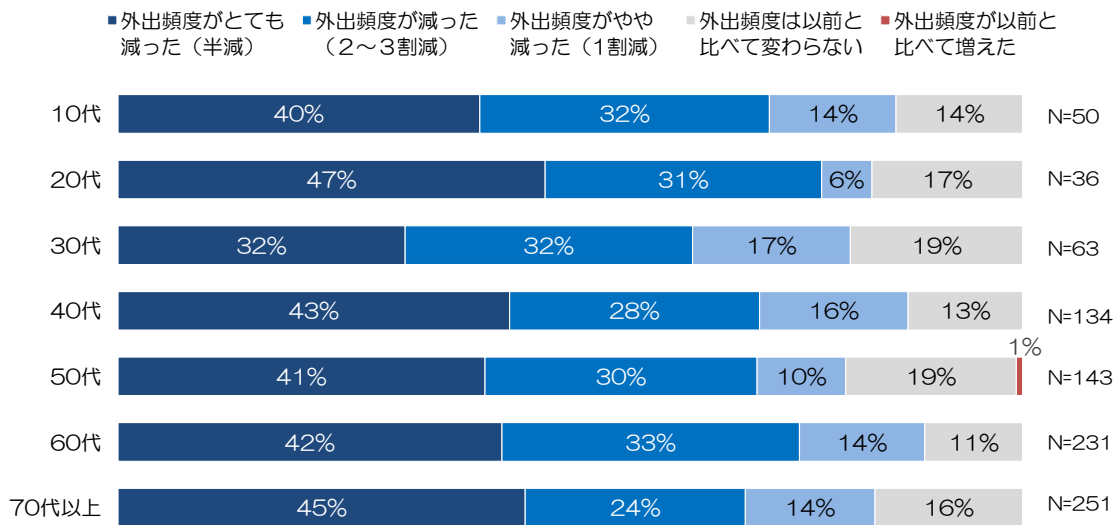


図-3. コロナ禍における年代別の外出頻度の変化

## 1-2. 県民・県外居住者の GTFS の認知度の比較

GTFSを「知っており、利用した」の割合は、県内居住者の18%に対し、県外居住者は24%と県内居住者よりも6ポイント高くなっている。なお、「知らない」の割合は、県内居住者53%、県外居住者54%とほぼ同じである。

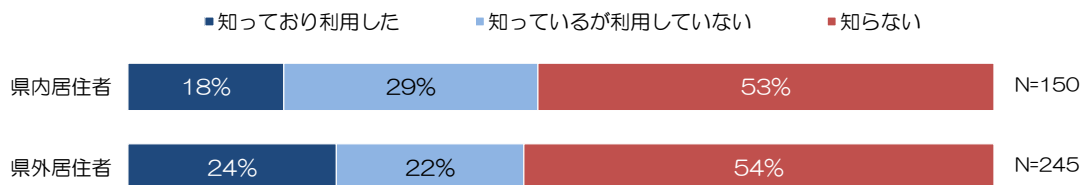


図-4. 県内居住者と県外居住者の GTFS の認知度

## 2-4.公共交通利用者・非利用者の評価

幹線バスについては、公共交通利用者、非利用者で大きな差はみられないが、Nバス、おでかけなんじいは、全般に公共交通利用者の評価が公共交通非利用者よりも高くなっている。特にNバスの「乗り降りのしやすさ」、「乗り心地」、「運転手の対応」、「運賃」、おでかけなんじいの「利用のしやすさ」、「運転手の対応」は0.3ポイント以上、公共交通利用者の評価が高くなっている。

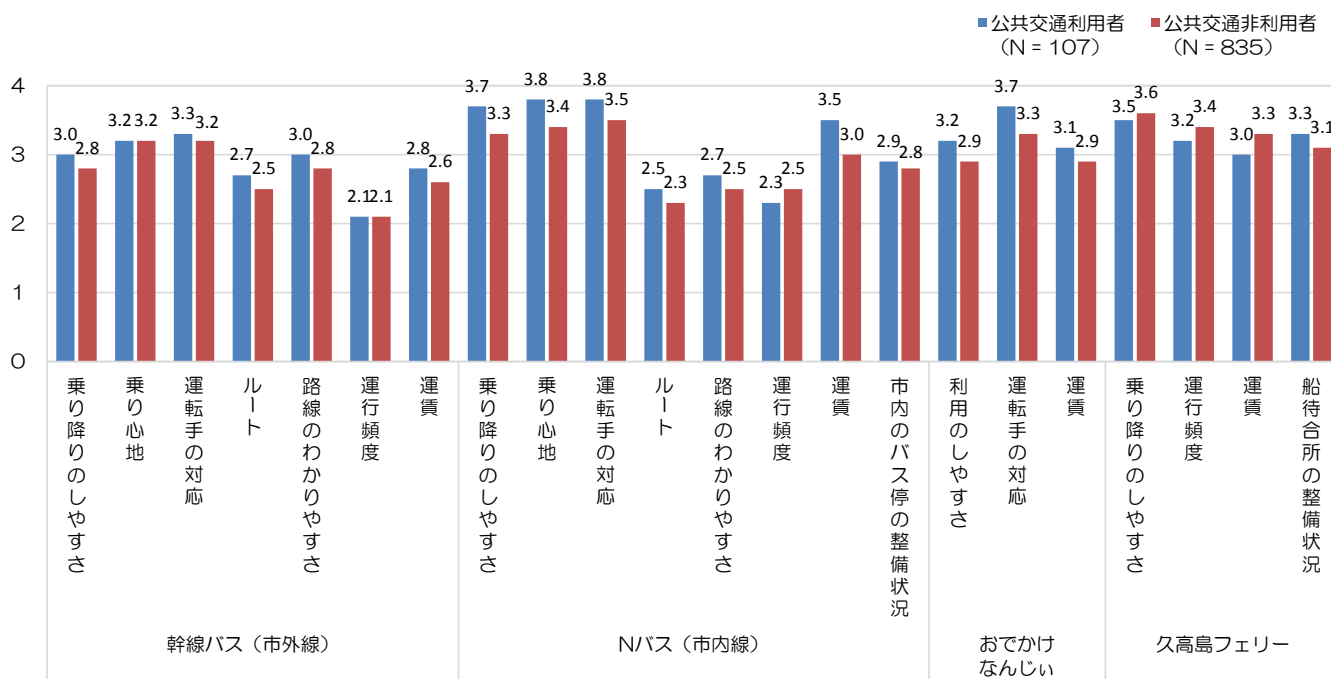


図-5.公共交通利用者と非利用者の評価結果